

アイヌ民族の

歴史と文化を学ぼう

■講演…川村シンリツ・エオリバック・アイヌ（川村カ子トアイヌ記念館館長）

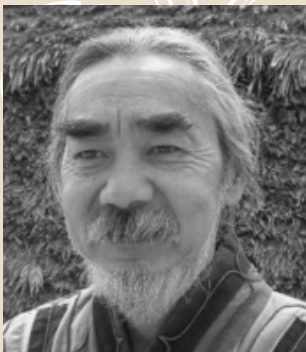
■司会…池田五律（小論文科講師）

アイヌ民族は、和人により不公正な交易を強いられながらも、それに抵抗し、独自の言語、文化を育んでいた。だが、明治以降、日本人への同化を強いられ、言語や文化を否定され、日本人とされながらも差別された。その下でも固有の文化は受け継がれ、言語を取り戻す取り組みなどが行われてきた。

そして1997年にはアイヌ文化振興法が制定され、2007年の国連の先住民族の権利宣言を受け、2008年にはアイヌを先住民族と認める国会決議も行われた。

しかし、先住民族としての権利を保障する政策は進められていないのが現状である。それどころか、最近も札幌市議がアイヌ民族の存在自体を否定する発言をするといったことが起きている。

民族文化の保存に取り組んでこられた川村さんのお話を伺い、アイヌ文化に触れることを通して、様々なことを考えるキッカケにして欲しい。



川村シンリツ・エオリバック・アイヌ（川村カ子トアイヌ記念館館長）

1951年旭川市近文コタンに生まれる。「シンリツ・エオリバック・アイヌ」は、おばのユーカラ伝承者の故砂沢クラさんが命名。「先祖を大事にする人」という意味。父カネトは測量技師で飯田線（愛知県）の測量を行なった。カネトを主人公にした合唱劇『カネト』は全国各地で公演され好評を博している。26歳で川村カ子トアイヌ記念館館長になる。1985年、旭川では28年ぶりのイオマンテ（熊送り）を行う。

川村カ子トアイヌ記念館館長として館の運営にあたりるとともに、同館旭川チカッブニ・アイヌ民族文化保存会会長、同館旭川アイヌ語教室運営委員長として中心的な立場に立ち、小中学校でのアイヌ古式舞踊の指導実演、旭川アイヌ文化フェスティバルの開催など、アイヌ文化の普及啓発における活発な活動を行ってきた。

また、自らも伝統儀式や祭礼の伝承指導、笹葺きチセの製作・技術指導、各種講演活動を行うなど、アイヌ文化の伝承・保存に大きく貢献している。

2009年度アイヌ文化奨励賞（個人）を受賞。

10月20日(月) 16:50~18:20
松戸校 4A教室

入場無料
申込不要

〒271-0092 松戸市松戸 1305-9

☎0120-192-730

●JR常磐線（東京メトロ千代田線乗り入れ）・新京成線/松戸駅西口より徒歩3分

